

論文内容の要旨

報告番号		氏名	吉本 和樹
Influence of underlying diseases and age on the association between obesity and all-cause mortality in post-middle age (和 訳) 肥満と全原因死亡率との関連に基礎疾患と年齢が及ぼす影響			

論文内容の要旨

肥満と全原因死亡率との関連について、肥満度が高くなるほど全原因死亡率が高くなるという研究報告がある一方で、疾患を持つ肥満者は生存率が高いという研究報告もある。我々はこのような対照的な結果となる要因として、年齢と基礎疾患の有無が関連しているのではないかと考えた。そこで、中高年者以降の肥満と基礎疾患の有無が全原因死亡率に与える影響を明らかにすることを目的に本研究を行った。

45歳以上の参加者 33708 人を対象に、45歳以上、45-64歳、65歳以上の各年齢層において全員対象の群、基礎疾患あり群、基礎疾患除外群で Cox 比例ハザードモデルを用いて、年齢、性、人種、教育歴、婚姻状態、世帯収入、喫煙歴、BMI カテゴリーを共変量として HR を求めた。

65歳以上の基礎疾患除外群では、BMI 25- < 30 kg/m²及び BMI 30- < 35kg/m²、BMI35 kg/m²以上における HR がほぼ1であった。また、基礎疾患除外群の BMI35 kg/m²以上において 45-64歳では HR が高くなるが、65歳以上では HR がほぼ1であった。

本研究により基礎疾患がない 65歳以上の方は、肥満と全原因死亡との関連はみられなくなることがわかった。また、基礎疾患がない場合、BMI35 kg/m²以上の 45-64歳の人では HR が高くなるが、65歳以上の人では HR がほぼ1となっていることから、年齢による交互作用があることがわかった。本研究により、中高齢者と高齢者の肥満者への指導内容及び教育内容を変更する必要性についての提言が可能になるのではないかと考える。